

第 5 回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

●日 時：令和 6 年 11 月 15 日（金） 10：00～11：45

●場 所：土浦市役所 3 階 庁議室

●出席者：

[有識者会議委員（13 名）]

大澤委員長、佐野副委員長、森委員、今高委員、石井委員、稲本委員、松山委員、菅谷委員、齊藤委員、伊藤委員、内村委員、大塚委員、長島委員

[土浦市（8 名）]

入野教育長、塚本総務部長、水田市民生活部長、羽生保健福祉部長、真家こども未来部長、飯泉都市政策部長、渡辺建設部長、加藤教育部長

●事務局（7 名）：

佐々木参事兼課長、川村主任政策員、小野主任政策員、上田政策員、土田 D X 推進課長、佐々木課長補佐兼情報管理係長、大山デジタル推進係長

●配布資料：

- ・資料 1 - 1 第 4 回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録
- ・資料 1 - 2 第 4 回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議での主な意見とその対応について
- ・資料 2 第 3 期土浦市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」(案)
- ・資料 3 第 3 期土浦市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」(案)
- ・資料 4 第 3 期土浦市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」(案) 及び「総合戦略」(案) に係るパブリック・コメント実施要領 (案)
- ・参考資料 1 第 3 期土浦市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」における成果指標及び K P I の見直し一覧表
- ・参考資料 2 第 3 期土浦市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」(案)・「総合戦略」(案) 概要版

1 開会

2 委員長あいさつ

- ・先週末に、新潟県の佐渡市に行ってきた。目的の一つは、公道での自動運転バスの実証実験で、全長約 30km のルートを時速約 35km で走る、本格的な実証実験であり、新しいテクノロジーを体験してきた。
- ・二つ目は、新潟県の高校再編委員会の委員になっていて、佐渡市は人口が 5 万人弱のところ、県立高校が 5 校もある。今年の佐渡の出生数は 200 人弱、40 人クラスで 5 クラスとなる。再編したいという意向はあるが、総論には賛成するものの、各論になると反対という状況でなかなか進んでいない。
- ・技術は進んでいるが制度や体制が追い付いていないという不思議なことを体験してきた。どんどん進んでいく技術にあわせて、計画をきっちり作っていくことが必要だと感じた。本日の会議においても、委員の皆様には、積極的なご意見をお願いしたい。

3 報告事項

(1) 第4回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録について

(2) 第4回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議での主な意見とその対応について

【事務局】

- ・配布資料に基づき説明。

【委員】

- ・土浦市の出産費用に対する補助額はどのくらいの金額か。

【事務局】

- ・国が出産費用の補助額を42万円から50万円に引き上げたことにあわせて、国民健康保険の対象者の出産費用については、50万円を補助している。

【委員】

- ・資料1-2を見ると、市内で出産した場合の出産費用は、土浦協同病院で60万円から75万円、霞ヶ浦医療センターで55万円前後となっているが、その他の医療機関においても同じくらいの出産費用がかかるという認識でよいか。
- ・土浦市で出産する場合は、医療機関の出産費用から補助の50万円を引いた金額を支払うという認識でよいか。

【事務局】

- ・新聞報道にもあったが、出産費用の全国平均が51.8万円のところ、都道府県別では最も高い東京都で62.5万円、最も低い熊本県で38.9万円であった。
- ・委員のご意見のとおり、医療施設の出産費用から補助の50万円を引いた金額を支払うことになる。

【委員】

- ・資料1-2の7ページから9ページの参考資料におけるアンケートについて、何が読み取れるのか分かりづらい。分析結果はあるのか。

【事務局】

- ・先程ご説明した、資料に四角囲いして示した内容が分析結果である。今までは、例えば8ページの関係では、アンケートの自由記述に「治安」に関する意見が多いという印象で捉えていたところ、今回AIを活用することで、用語の頻出頻度が高いほど文字が大きくなり、中心に配置されるなど、視覚的に把握することができるようになった。

【委員】

- ・駅周辺の治安について意見が多かったというのが分析結果ということか。高校生は「ほしい」という意見が多いようであるが、何が「ほしい」のか分析できているのか。

【事務局】

- ・前回の会議において、アンケートの自由記述の内容にどんな傾向があるのかという質問があったため、今回新たにAIを活用して分析を行った。頻出頻度が高いものについて文字が大きくなることから、高校生や大学生は特に駅周辺の治安が悪いと感じている方が多いと受け止めている。また、子育て世帯については、本市には「子育て支援」、「公園」が足りないと感じている方が多いと受け止めている。

- ・「ほしい」については、「場所」、「充実」、「整備」という言葉が周辺に見られるため、駅周辺等に憩いの場を求めていると捉えている。

【副委員長】

- ・自由記述欄の分析について、前回の会議の意見を反映していただいたことに感謝する。自由記述欄の分析の意図としては、この会議に出席できない高校生や子育て世帯等がどのような考えを持っているのか、もし会議に出席したらどのような意見を言うのかを知る上で、重要な手掛かりになると考えており、可視化されてよかった。
- ・委員のご意見のとおり、高校生・大学生の自由記述分析の中心にある「ほしい」については、もう一歩踏み込んで知りたいと思うので、典型的にはこういった意見があるのか把握できると良い。

【委員】

- ・駅が改築される 20 年ほど前は、ストリートのミュージシャンが多くいたが、市の方針で一掃してしまった印象を受けている。柏市では反対にストリートのミュージシャンを積極的に呼び込んで駅前が賑わっている。市の政策で駅周辺をきれいに整備してきた結果、空き店舗が増えたような気がしている。

【事務局】

- ・市では路上での音楽活動等の規制はしていない。学祭 TSUCHIURA だけでなく、つくば国際大学の先生を中心とした新たな取組も進んでいることから、まちの活性化に向けて、若者の活動を支援していきたいと考えている。

4 議 事

(1) 第3期土浦市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」(案)・「総合戦略」(案)について

【委員】

- ・資料2の76ページについて、TX土浦延伸による開発人口を2095年まで推計している。また、下のグラフのTX開発人口を加味した将来人口の推計では、現在の人口が約14万人のところ、2060年には約13万5千人と推計している。
- ・都市計画課において、2060年の将来人口を8万5千人と想定し、市内を5つのブロックに分け、人口を集約していくような計画を策定していたと思うが、その計画との整合性はどうなっているのか。

【事務局】

- ・委員のご意見について、どの計画を指摘しているのか分からないところもあるが、人口ビジョンについては他の計画との整合性を図りながら策定している。
- ・前回の人口ビジョンは社会動態と自然動態がマイナスだったため、今回の人口ビジョンより数値が低かった。現状では、自然動態はマイナスであるものの、社会動態がプラスになっており、そういった状況を加味して将来人口を推計している。

【委員】

- ・TXの土浦延伸の開発人口の推移について、2095年に人口が11人増えるとあるが、どのように算出しているのか。

【事務局】

- ・この数値は、あくまで仮定を踏まえた推計となっている。茨城県の総合計画の中では、2050年のあるべき姿にTXの延伸が位置付けられているが、現時点では、ルートも新駅も決まっていない状況である。そのような中、新駅を1つと仮定した上で、既存のTX沿線開発事例のうち本市に類似する郊外型の開発状況を参考とし、開発人口を算出している。
- ・さらに、社人研が推計している将来人口推計に、TX開発人口を加味した形で、改めて将来人口を推計している。2095年までの開発人口の増加は、埼玉高速鉄道沿線の開発における推計手法を参考にしており、その中では50年間をかけて整備・開発を進めることを想定しているため、本市に置き換えて開発人口を算出している。
- ・TX土浦延伸の開発人口の推移の数値については、今回人口ビジョンではじめて出す数値であるため、今後はこれにあわせて他の計画を見直ししていくことになる。

【副委員長】

- ・結婚・出産・子育てに関する戦略分野を優先順位の一つ目に移行したことに注目している。
- ・自由記述欄を分析した中で、子育て層からの意見では、「公園」というキーワードが出てきている。総合戦略の中では、公園については施設管理に関連して記載はあるが、もう少し公園というキーワードを盛り込むことを検討いただきたい。

【事務局】

- ・委員からのご指摘のとおり、公園というキーワードを盛り込むよう検討したい。

【委員】

- ・総合戦略では、出産、乳幼児、保育所に関する支援については位置付けられているが、その先の学校教育や社会教育的なところ、どうやって子どもを成長させていくかという観点が抜け落ちているように思う。その点については、学校を含め、地域との関係をつくりながら取り組んでいくことが重要だと考えているが、その対策には触れなくてもよいのか。
- ・小学校、中学校と子どもが成長していく中で、保護者をサポートするような内容についてもアンケートに盛り込むと良かったと感じている。

【事務局】

- ・総合戦略は、全ての分野の目標や取組が示されている総合計画から、人口に特化した内容を抽出したような計画となっている。委員から指摘があった要素も重要であることは認識している。
- ・そのような中、戦略分野の一番目に結婚・出産・子育てを位置付け、内容としては結婚・出産だけではなく、子育ての応援まで取り組むものとなっている。いろいろな要素があるかとは思いますが、今の一番のニーズを踏まえつつ、総合戦略では仕事と子育ての両立できる環境や安心して子育てができる環境整備等について前面に打ち出したいと考えて進めている。

【委員】

- ・今後、子どもたちが本市から流出しないようにするために、行政的に、あるいは地域社会の中で、小学生・中学生の子どもたちをどのように支援していくか、総合戦略に書いていないところが少し残念に感じた。

【事務局】

- ・高校生については、本市には高校が多いという特徴を踏まえ、シビックプライドの醸成について総合

戦略に位置付けている。これまでの意見を踏まえ、結婚・出産・子育てについて、まずはしっかりと取り組みつつ、高校生に対して本市への愛着を持ってもらい、市外の大学に行っても本市に戻ってきてももらえるようお願いを込め、総合戦略に位置付けている。

【委員長】

- ・委員のご意見は重要な視点ではあるが、政策の重点化という観点から、総合戦略に盛り込めていないことはご理解いただきたい。

【委員】

- ・総合戦略のK P Iについて、アンケート調査結果に関する指標を設定しているものがあるが、アンケートの実施頻度はどのように考えているのか。

【事務局】

- ・今回の総合戦略においては、委員のご指摘のとおり、新たにアンケート調査結果をK P Iとして設定しているものがある。アンケート調査によって、実施頻度が変わってくるところがあるが、例えば、戦略分野ⅣのT Xに関するK P Iについては、今年度実施したまち・ひと・しごとのアンケート調査に基づき設定していることから、今回は5年後に実施する予定である。

【委員】

- ・進捗を管理する上では、計画期間中にもう一度アンケート調査を実施し、K P Iの達成状況を確認しても良いのではないかと。

【事務局】

- ・総合戦略のK P Iについては、個別計画の指標を多く活用しているため、個別計画の進捗管理の中で対応可能であり、総合戦略にも反映できるところがあれば反映させていきたいと考えている。

【委員長】

- ・デジタルツールを活用すれば、コストをかけずにアンケート調査を実施することが可能ではないか。進捗管理を中間年度に実施してはどうかという意見である。

【事務局】

- ・個別計画の指標にもなっているK P Iについては、毎年度、進捗状況を把握している。アンケート調査の実施頻度については検討したい。

【委員】

- ・過去30年で中小企業数は約3割減っており、今後、さらに加速度的に減少していくことが予測されている中、戦略分野Ⅱの施策方針①の「地域産業の成長を通じた雇用力の拡大」については、地域の中企業が置かれている状況と将来像を考えたときに、内容が古いと感じている。
- ・国では、潰さない、すべて助ける、というような中小企業等に対するセーフティネット的な対策から、転廃業支援など残すべき企業に投資して雇用を吸収し、賃金を上げていく方針に転換している。
- ・これからの戦略という中で、単純なM&Aだけではなく各種ファンドの活用など、そのような観点が抜けていないか。

【事務局】

- ・「地域産業の成長を通じた雇用力の拡大」については、難しいところではあるが、これまで実施してきた自治金融の保証料の支援や土浦まちゼミへの協力などを主な取組として位置付けている。また、デ

デジタル関連のセミナー開催ということで、事業者向けの情報発信の強化の取組などを新たに位置付けている。この施策方針の主な取組については、商工会議所で実施している内容が多いため、商工会議所と協議しながら今後に向けた検討を行いたいと考えている。

【委員】

- ・「地域産業の成長を通じた雇用力の拡大」という文言について、将来のことを考えた、未来に向けた内容をいれて修正いただきたい。先進事例の紹介やアドバイス等も行えるため、遠慮なく連絡していただきたい。

【事務局】

- ・ご意見を踏まえ、総合戦略の内容の見直しを検討したい。

【委員長】

- ・時代にあった表現に更新していただきたい。

【委員】

- ・成果指標とK P Iに関して、「なぜ目標を達成できなかったのか、達成したものはなんだったのか、K P Iを達成していくためには何をしていく必要があるのか」については、本日は説明されなかった資料3に記載されているという認識でよいのか。改めてご説明をお願いしたい。何か力になれることはないかと考えている。

【事務局】

- ・成果指標とK P Iはかなり大きい目標を設定している。例えば、合計特殊出生率が低い結果となったが、なぜ達成できなかったのかについては、理由が一つや二つではなく、なかなか判断が難しい状況である。一方、観光入込客数について目標を達成できなかった理由は、花火大会を開催できなかったことなど、コロナの影響が大きいと考えている。目標を達成できなかった理由については、指標によっては分かりやすいものもあるが、一概には判断できないものが多い。

【委員長】

- ・観光入込客数について、人流データ等を活用できれば傾向が見えてくると思うので是非ご活用いただきたい。データのコストが高いため、他市町村を巻き込んで広域的な活用を検討するなど、コストを安くする工夫が必要である。

【委員】

- ・それぞれの指標は、具体的にはどのような取組により達成するのか。また、年度ごとの目標値は設定しているのか。

【事務局】

- ・総合戦略に位置付けている施策や主な取組、さらには、個別計画の事業を進めながら目標達成に向けて取り組んでいきたいと考えている。総合戦略の中では年度ごとの目標値は設定していないが、個別計画において毎年進捗を管理している。

【委員】

- ・総合戦略の11ページの「質の高い、利用しやすい保育等サービスの提供」について、近隣のかすみがうら市では0歳児から2歳児の第2子の保育料を無償化している。土浦市の考えはどうか。
- ・放課後児童クラブは、現在は第1土曜日のみの開所となっているが、保護者からほかの土曜日も開所

してほしいといった意見があるのではないかと。

【事務局】

- ・3歳児から5歳児は、国の方針により保育料が無償になっている。0歳児から2歳児の保育料の無償化の話だと思うが、市長が当選した際の公約にもあったが、令和2年4月から5%程度の保育料の引き下げを行った。
- ・そのほかにも、国の基準に基づき、就学以前の子どもが2人以上いる場合、保育料は第1子は全額負担だが、第2子は半額、第3子以降は無償としている。さらに、県と市の事業において、3人以上の多子世帯の場合、第2子は所得制限あるが半額助成、第3子以降は全世帯について全額助成をしている。近隣自治体の状況は把握しているが、保育料の全額無償化については財源の問題もあり、現段階では検討していない状況である。
- ・放課後児童クラブについては、現在第1土曜日のみ開所している状況である。今年度「こども計画」を策定している中で、各種アンケート調査を行ったが、ほかの土曜日についても開所してほしいといった意見はみられなかった。そういった需要や要望があれば今後検討していきたい。

【委員】

- ・本市の子どもを健やかに育て、成長の一端を担う、というところに力を注いでいただけら良いと考えている。自分のところの延長保育については、放課後児童クラブの開所時間にあわせて保育時間を設定している。昨今は働く方が多くなっているため、子どもを預ける時間が長くなってきており、預ける時間が長いほど、子どもへの負担があると感じている。

【事務局】

- ・放課後児童クラブの開所時間の延長に関して、利用者のニーズを把握するため、市内の5箇所のクラブでアンケート調査を行った。アンケート調査の中では、現行の午後6時半までで満足という意見が約95%であったが、一方で約5%の方は午後7時までの延長を望んでいるという結果だった。
- ・開所時間の延長については、仕事と子育てを両立する上で、非常に重要なことであると認識している。放課後児童クラブは、毎年事業者と契約して運営しているが、来年度の放課後児童クラブの委託に関する仕様の中で、午後7時までの延長についても仕様に盛り込む方向で検討している。
- ・つくば市には、民設民営の放課後児童クラブが多くあると伺っている。開所時間を延長する場合に問題になってくるのは人材確保の部分で、なかなか人が集まらずに、結果的に延長が難しくなるという事情がある。民設民営の放課後児童クラブの参入を促すことによって、受け皿づくりを更に進めたいと考えている。

【委員】

- ・子育て世帯アンケートにおける自由意見には、公園という言葉が多くでていた。以前住んでいた柏市には、小さい公園があちこちにあった。子育てしている中で、土浦市には公園が少ないという印象があるため、小さい公園でいいので、もう少し増えたら良いと思った。
- ・公園に遊具を設置すると、事故の恐れや、古くなった時に誰が管理するのかなど、様々な問題が出てくるため、あまり設置していないものと思っている。子どもが3歳頃までは、小さい遊具が2、3個あれば十分だと思うので、遊具の設置を検討してほしい。
- ・育児休業に関して、母親が一日働きに行くということであれば、父親が育児休業を一日取得して育児

をするというのも良いが、母親が育児休業を取得できるのであれば、父親は夕方に帰ってきて、子どもをお風呂に入れたり、寝かしつけをするなど、時短勤務を選ぶ選択肢もある。

【事務局】

- ・公園については、市民や地域の方から、また先日の子ども模擬議会の中で小学生の方からもご意見をいただいている。本市には、総合公園や運動公園、小さな公園も含めて288の公園がある。遊具は約500基を設置し毎年点検を行っており、古くなったものや壊れたものについては順次更新をしている。
- ・一方で、公園が少ないというのは、委員のご指摘のとおりだが、なかなか公園を増やすことは難しいところもある。昨年度には、国の補助金を活用して乙戸沼公園の大型遊具を更新し、本年度は亀城公園の遊具の更新を予定している。まずは、今ある公園の魅力向上や安心・安全に楽しく過ごしていただくことを基本的な考え方として、公園の整備や更新、修繕を進めているところである。

【事務局】

- ・委員のご意見のとおり、家庭の状況によっては育児休業ではなく、時短勤務の方が良い場合があることは認識している。今回、父親の育児休業をKPIに入れた背景には、国で男性の子育て参加や育児休業取得の促進等を目的としたイクメンプロジェクトを進めていることがある。

【委員】

- ・総合戦略の基本施策がいろいろ書いてあるが、【継続】や【見直し】は、どのような意味合いなのか。一つずつ取組を検証し、さらに効果のある施策を進めることが重要だと考えている。

【事務局】

- ・施策については、主なものを総合戦略に位置付けている。足りない部分は施策を追加したり、あまり効果がでないものは施策を見直ししたり、総合戦略に反映させていく。

【委員】

- ・人口ビジョンという観点では、子どもが生まれるような施策が重要であるが、子どもは成長して、小学生、中学生になっていく。私は、ロックみらい塾という学習支援のボランティアを行っており、学校の授業だけではなかなかついていけない子どもに対して、自ら学ぶ習慣を身につけられるよう支援している。
- ・子どもは、生まれてから保育所くらいまでは親の懐の中にいるが、学校に行ってから子どもの個性等もあり、中には問題がある行動をとる子どもも出てくる。そのような場合にどのように支援したらよいか保護者は悩んでいる。
- ・2008年にDVに関する調査を実施したが、「DVの経験はありますか」という質問に対して、高校生・大学生は5人に1人くらいが「経験あり」という結果だった。この結果に非常に驚いたが、今も状況はほとんど変わっていないと思う。DVの経験がある子どもたちは、自分が傷つけられたりする経験の中で、自己肯定感が低くなってしまい、結婚に踏み切れない要因の一つになっている可能性がある。
- ・今回の総合戦略では、子どもをどうやって生み、育てていくかについて、重点的に施策を位置付けているが、子どもが大きくなって働き、結婚していくことを考えると、自己肯定感を持った子どもを育成することが重要であると考えられるため、そのような点についても施策として加えてもらえると良いと思う。

【事務局】

- ・総合戦略の13ページの「子育てを支える社会の実現」の中で、「地域や高齢者との連携を進め、地域ぐるみで子どもを守り、育てる環境の構築」のところで言及している。多様な子どもの居場所づくりが求められている中、総合戦略では、主な取組として子ども食堂の支援や学習支援などの具体的な事業をあげている。DVの被害者等も含めて居場所がない方を地域で支えていくことは重要な視点であることから、今後この内容を広げながら進めていきたいと考えている。

【委員】

- ・総合戦略の13ページの戦略分野Ⅰの中に「結婚支援の充実」があり、14ページには「いばらき出会いサポートセンターと連携しながら取組を強化する」という記載があるが、具体的に行っている取組はあるのか。

【事務局】

- ・コロナ禍以前は、市ではカップリングパーティーを実施していたところだが、参加者が少なくなってしまった。その後、県がマッチングアプリを整備したため、現在はそのアプリを通じた結婚支援を行っており、市ではカップリングパーティーのようなイベントは実施していない。
- ・市内には結婚相談関係の団体が二つあり、団体が相談会やカップリングパーティーを開催する際には、各地区公民館や会議室の貸し出しなどの協力をしている。
- ・それ以外に結婚支援事業として、新婚世帯を対象に、敷金・礼金・仲介手数料等の引っ越し費用の助成を行っている。

【委員】

- ・コロナ禍以前は、連合の土浦地区においても、年に1回婚活パーティーを行っていたが、近年はコロナ禍で開催が難しくなり活動を中止していた。最近の会議の中で、同様のイベントをやっていいかという話が出ており、人数を集めるのが難しいという課題もあるため、市と連携して取組ができれば良いと考えている。
- ・総合戦略の18ページの戦略分野Ⅱの中に、「生産力の維持・拡大に向けた高齢者の就業促進」とあるが、個人的には高齢者の就業促進はもちろんだが、外国籍の労働者へのサポートを手厚くしてほしいと考えている。製造業は人が集めにくい中、外国籍の労働者が増えているが、言葉の壁で職場になじめず退職してしまう人が多い状況にある。自分の会社では、社内に翻訳機を整備したり、通訳の方にサポートしていただいている。小中義務教育学校には多言語翻訳機などの支援ツールがあげられているが、中小企業の場合はサポートが難しい事業者があると思われるため、ニーズをくみ取りながら戦略の中に位置付けること検討していただきたい。

【事務局】

- ・外国人の労働・雇用について、現在、新しく多文化共生推進プランを策定しているところだが、ハローワークにご協力をいただきながら、ハローワークの窓口でも外国人に対応した様々な取組を行っていただいている。日本語の習熟段階によって様々な需要があると認識しているが、やさしい日本語を広めていくことや日本語教室の開催など、様々な需要に応じていけるように取組を進めている。いろいろな連携をさせていただきながら取組を進めていきたいと考えているため、今後もご支援・ご協力をお願いしたい。

【委員長】

- ・人手不足が進んでいくことは明らかであるため、外国籍労働者への支援について、総合戦略の内容に文章として盛り込んでいただきたい。

【委員】

- ・父親の育児休業について、フルタイムで取得することは難しいケースがあるため、パートタイムの育児休業の取得を促進するよう、県や国に要望を出してはいかがか。
- ・公園について、ベンチを設置するだけでなく、子どもたちが集まれるような屋根付きのものをつくってほしいと市に要望したが、却下されたことがあった。そのような内容を提案した場合、設置の検討は可能なのか。
- ・また、500基程度の遊具があるという話があったが、遊具による事故等の報告はあるのか。

【事務局】

- ・父親の育児休業については、国においてもいろいろな制度があり、短時間勤務の制度も整備されている。周知が弱いというところを踏まえ、国と歩調を合わせてしっかりと進めたいと考えている。
- ・公園の遊具については、毎年点検を実施しており、点検結果を踏まえて危険なものは使用できなくしたり、新しいものに更新したりしている。そのほかにも、地域の方から遊具が壊れているといった連絡をいただくことがあり、すぐに現場を確認の上対応している。ご相談いただきながら、対応できるところから順次進めていきたいと考えている。これまで遊具による事故の報告はない。

【委員長】

- ・意見があった内容については、総合戦略への反映を検討していただきたい。

(2) その他

【事務局】

- ・パブリック・コメントの実施について、資料4に基づき説明。
- ・次回の会議は2月14日午後2時から庁議室において開催予定。

5 閉会